

地域包括ケアシステムにおける介護支援専門員のコンピテンシーに関する研究

—H市の主任介護支援専門員に対するインタビュー調査から—

○ 首都大学東京 葉 千佳 (9027)

キーワード：介護支援専門員・コンピテンシー・地域包括ケアシステム

1. 研究目的

2000年4月より実施した介護保険制度に伴い「介護支援専門員」（ケアマネジャー、以下CM）という名称の専門職が誕生した。介護保険法では介護支援専門員に関する定義と就労条件を明記しているが、制度が施行されてから15年間に6度の改正を経た実際の現場では、ケアマネジメントの実践におけるCMの専門性や、ケアマネジメントの質に関する課題が常に存在している。さらに、2025年に向けた「地域包括ケアシステム」の構築において、ケアマネジメントは、従来の要介護高齢者に対する介護サービスの調整機能から、地域に点在する「介護・リハビリ」「医療・看護」「保健・予防」「福祉・生活支援」の4つのサービスをつなぐ機能へシフトしていき、CMにはより多方面にわたる高度な専門性が求められるようになってきている。以上の背景により、今日的課題の「地域包括ケアシステム」におけるケアマネジメントに関する役割は明記されているものの、複雑な介護保険制度の改正または利用者の多様なニーズに対応できるCMのコンピテンシーはなにか、明確にされていない。また、今後のCMの育成や、ケアマネジメントサービス評価にも活用できるコンピテンシーモデルの具体化が必要である。これら課題をふまえ、インタビュー調査によるCMにおけるコンピテンシーの概念を明らかにすることを本研究の目的とする。

2. 研究の視点および方法

コンピテンシーは1973年にマクレランド（McClelland, D. G.）により提唱された実践能力評価の概念で、「職務上の高業績につながる知識、技術、能力、その他の特性」のことを示している。1990年代には、各国の研修者によって活用され、近年では日本の教育や看護の分野で、コンピテンシーを活用した成果（業績）評価が多く実証されている。本調査では介護保険制度において、ケアマネジメントが適切に提供されるために必要な業務に関する知識及び技術を持ち、CMの業務をよく理解し、または他のCMに対する助言・指導をする立場である東京都H市居宅介護支援事業所に所属している主任CM8名を調査対象に、半構造的面接法を用いた事例調査を実施した。インタビューの時間は一人当たり一時間から一時間半程度、調査期間は2016年2月から3月である。質問項目は基本属性の他、「介護支援専門員に求められる基本条件・資質について」、「介護支援専門員がケアマネジメントを行う際に求められる実践能力とは何か」、「介護支援専門員が介護保険制度における最も重要な役割とは何か」、「介護支援専門員の実践能力に関する問題点について」である。

また、これらの質問に加え、スペンサー（Lyle M. Spencer）らが示した「支援・人的サービスの従事者」のコンピテンシー・ディクショナリー、及び同じ保健・福祉領域の職種におけるコンピテンシーモデルを参考に作成したケアマネジメントプロセスに求められるコンピテンシー（仮）について対象者に確認作業を実施し、コンピテンシー概念の分析を行った。

3. 倫理的配慮

本調査は、首都大学東京倫理委員会の審査に基づき、事前に研究依頼状を用いて調査対象者に本研究の主旨を説明し、研究への協力は強制でないことと、データの管理と活用等を記載した書面に同意を得て実施した。

4. 研究結果

調査対象者の平均年齢は57.3歳、女性5名、男性3名である。保有資格は介護福祉士が3名、社会福祉士が3名、看護師が1名、その他1名であり、CMの平均経験年数は14.6年と多くの方は介護保険制度の初期からCM業務に携わり、全員現在は事業所の責任者兼主任CMとして勤務している。今回の主任CMへのインタビュー結果より、CMに必要な実践能力について、「コミュニケーション能力」「傾聴」「知識」「ネットワーク」「調整能力」というキーワードが多く聞かれた。またこれらは、ケアマネジメントプロセスの段階に関わらず、利用者の自立支援生活を支える全行程において重要なコンピテンシーであることが明らかになった。さらに質的分析の結果、CMに必要な実践能力を、9つの大カテゴリー「対人援助技術」「専門能力」「調整能力」「利用者満足」「個人的資質」「自己統制」「教育」「柔軟性」「ジェネリックスキル」と、13個の小カテゴリーに整理することができた。

5. 考察

地域包括ケアにおけりCMのコンピテンシーモデルの試案を作成するため、CMの指導立場にある主任CMにCM業務上において必要な資質・実践能力について半構造的インタビューを行い、コンピテンシー概念のカテゴリーを整理した。CMは利用者一人一人のニーズをアセスメントし、状況に合わせて何度もサービスの調整を繰り返していくなかで、利用者の生活を支援する。時には高齢の利用者の状態が急変し、臨機応変の対応等が求められている。また、今後の地域包括ケアシステムの構築に向けて、サービス創出する能力を強化するために、CMはさらなるスキルアップと、地域に根付いたネットワークをより強く持つことが重要である。介護保険制度におけるCMの役割は変化していても、ケアマネジメント業務を実施していく上で必要なコンピテンシーは、社会福祉士と同様な「対人援助技術」に加え、介護保険制度内容の把握はもちろん、一般的な社会保障制度・医療知識等の「専門能力」も不可欠である。利用者の自立生活を支えるチームを作るのはCMの独自の役割であるため、「調整能力」は他の保健福祉職種のコンピテンシーより頻度が高いと考えられる。今後は、居宅介護支援事業所のCMを対象に、CMのコンピテンシーモデル有用性または妥当性を検証するための量的分析への展開を実施することが課題である。